



学校・部活動における重大事件 ・事故から学ぶ研修会

2018年度

【第1回】 2018年10月12日(金)18時00分～20時30分(世田谷・記念講堂)

【第2回】 11月7日(水)18時00分～20時30分(世田谷・記念講堂)

【第3回】 12月13日(木)18時00分～20時30分(世田谷・記念講堂)

教師・指導者を目指す日体生の皆さんへ

南部さおり（日本体育大学 スポーツ危機管理研究所 副所長）

自分の大好きなスポーツを、次の世代に受け継いでいく……。

とても素敵で、やりがいのある、重要なお仕事だと思います。それを担い、また目指す皆さんを、心から応援させて下さい。

ところで、皆さんは自分がスポーツをしている時に、「恐かった」「ひやっとした」「危なかった」という経験をしたことはありませんか？ スポーツは身体活動ですから、小さなケガまで100%なくすことはできません。むしろ、ケガをするリスクを押してでもチャレンジすることに意義がある、という考え方もあるかもしれません。

でも、皆さんが指導者として子どもや生徒たちにスポーツを行わせる場合には、可能な限りケガや事故のリスクを減らす努力をしなければなりません。あらゆる「ケガ」や「事故」は、起こしたくて起こすものではなく、誰にとっても、望まない結果でしかありません。そのため、過去に起きてしまった事故の内容を知り、そこから真摯に学ぶ姿勢が必要とされています。

この研修会は今年度で3年目に入りますが、これまで多くの学生、現役の指導者や教員の方々にご参加頂き、事故の当事者によるお話に耳を傾けて頂く貴重な機会となっています。

ご登壇者の方々はいずれも、過去に学校現場で起きた事故や事件の当事者の方々であり、現在の、未来の教師・指導者に向けて、貴重なご経験とメッセージを伝えて下さります。

起こってしまった事故・事件を「なかったこと」にするのではなく、そこからいかに学びを得るか、そして、同様の事案をいかに防ぐかということをここで学んで頂ければ、これほど嬉しいことはありません。是非、ふるってご参加ください。

申込方法は下記URLまたはQRコードから申込ください

<https://goo.gl/forms/WchAtdCkMaiVbaWy1>

日本体育大学 総合スポーツ科学研究センター

TEL : 03-5706-0931 (担当 : 中嶋・國嶋)



【第1回】 10月12日(金)

ASUKAモデルと、救える命を救うことの大切さを考える研修会

○桐田寿子さん（桐田明日香さんのお母様） ○桐淵博さん（日本 AED 財団理事）

コーディネーター：鈴木健介先生（保健医療学部准教授・救命救急士）

2011年9月、小学6年生の桐田明日香さんが駅伝練習中に倒れました。教師たちは明日香さんの心臓が止まっているとは思わず、AEDを使いませんでした。この事故の反省を踏まえ、さいたま市教育委員会のご遺族とともに、「体育活動等における事故対応テキスト：ASUKAモデル」を作成し、現在、全国の自治体に「救える命を救う」ための教材として広がっています。

この研修会では、明日香さんのお母様、そして当時市の教育長でありながら、明日香ちゃんの死に向き合い、同様の悲劇を生み出さないため遺族と心をつなげて歩んできた桐淵博さんをお招きし、さらに鈴木准教授によるミニ実習会も交えながら、命の大切さ、「救える命」とはどういうことであるか、そして、スポーツ中の事故にどのように対応すべきかについて、学びたいと思います。

【第2回】 11月7日(水)

部活動中の重大事故と体罰の問題について考える研修会

○中村周平さん（同志社大学大学院・ラグビー頸椎損傷事故当事者）とお父様、

○谷豪紀さん（大阪市立桜宮高校バスケットボール部OB）

○村川弘美さん（滋賀県愛荘町立秦荘中学校柔道部事件被害者遺族）

- 2002年11月、高校ラグビー部の練習中、当時2年生であった中村さんは、ボールを味方にパスして地面にうつぶせに倒れ込んだ時、他のプレイヤーが上に乗ったことで、頸椎損傷の重傷を負いました。首から下が思うように動かないものの、希望を捨てず、様々なリハビリを経験して学業に復帰。現在、同志社大学大学院でスポーツ事故と補償の問題について研究を行っています。
- 2012年12月、当時バスケットボール部の主将が顧問からの体罰を苦にして自殺しました。谷さんは、この主将の先輩部員として、同じ顧問の指導を受けていました。当事者として、経験者として、部活動における暴力的指導は許されないとの思いを、日体生に向けて率直に語って頂きます。
ぜひ、「自分ごと」として、これら当事者の経験や思いに、耳を傾けて下さい。
- 2009年7月、中学校1年生の村川康嗣君は、柔道部顧問からの「しごき」によって頭部外傷を受け、亡くなりました。周りからの執拗な中傷もあり、我が子を突然亡くし生きる希望を失ったご遺族は、生前から交流のあったプロボクサーとの交流によって身も心も救われました。亡き息子が繋いでくれた絆を聞いて下さい。

【第3回】 12月13日(木)

「いじめ」「指導死」の問題について“本気で”考える研修会

わが子をいじめで亡くしたご遺族・わが子のいじめ事件で学校を相手に戦った父親、ほか

「いじめ」について、皆さんは何を知っていますか？ もしかして昔、巻き込まれてしまった経験があるかもしれませんね。場合によっては、現在進行形で自分や、自分に近い人の問題として、悩んでいる人もいるかもしれません。それだけ、「いじめ」はどこでも起こっていて、ありふれた現象であると思われがちなものである一方、被害を受けた人の心は壊され、深刻な後遺症に悩み続けたり、自らの命を絶つまでに追い詰められてしまうほどに恐ろしいものなのです。

皆さんが教師や指導者になった時に、自分が指導する生徒たちの間にいじめが起こった時、どのように対応すればよいのでしょうか？ 下手なことをして、事態を悪化させるのではないかとしり込みしない自信はあるでしょうか？

この研修会は、「いじめにどう対抗するか」について、皆で真剣に考える機会にしたいと思います。

また後半では、教師による不適切な指導によって生徒が自ら命を絶つ「指導死」について、当事者の方々からのお話をうかがい、この問題について深く知って頂きたいと願っております。